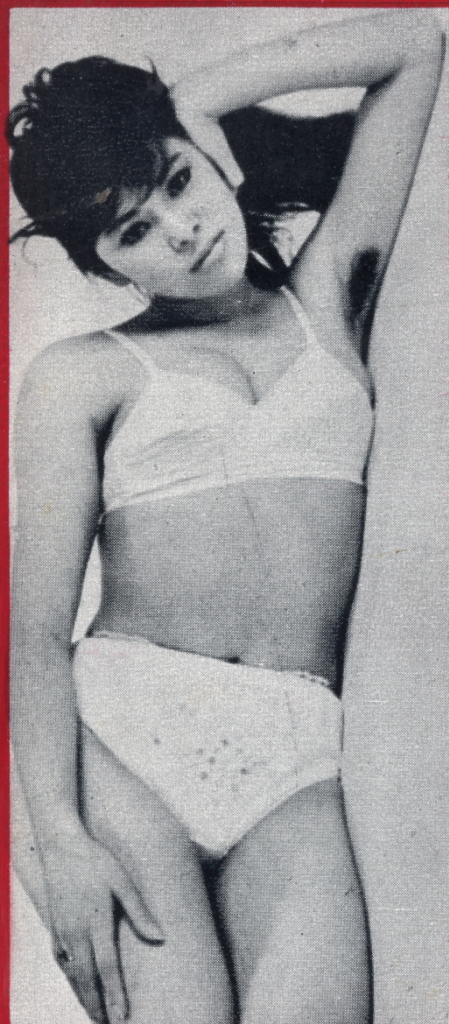
成人映画

the seizin-eiga

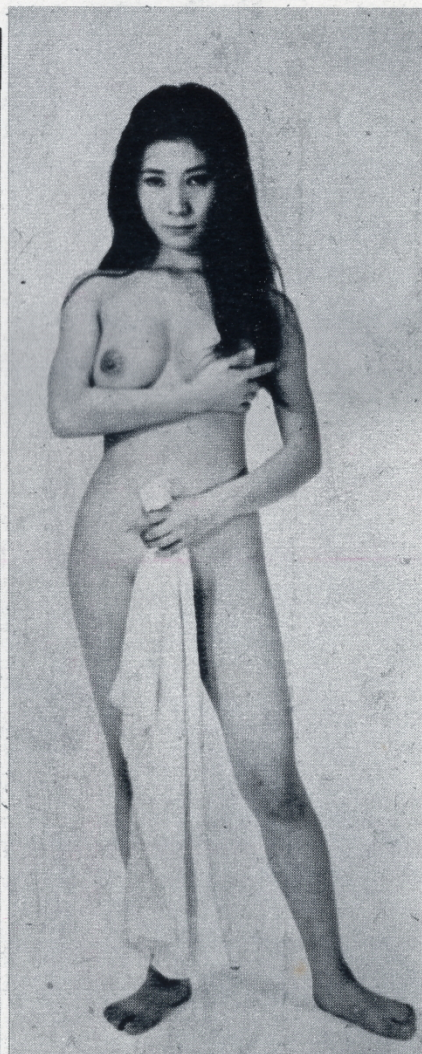
NO, 16

ワイド特集＊

「胎児が密猟する時」を考察する——

月刊「成人映画」通巻第十六号 昭和42年4月1日発行 編集兼発行人 川島のぶ子 発行所／東京都中央区銀座西八ノ二〇 高速道路ビル一〇一号室 電話（五七二）六四〇〇 現代工房 定価百円

目次〈オールグラビア特別号〉

成人映画／NO, 16

表紙■清水世津／山吹ゆかり／内田高子／谷口朱里／香取環／美矢かほる

胎児が密猟する時

若松孝二監督の主張を熱演する志摩みはる

大阪地区では一部に公開されているが、「胎児が密猟する時」は従来のピンク映画を数段乗り越えた傑作―という評判だ。

これがこれからの新しい「成人映画」の方向ともいえるサンプル作品である。異色で強烈で、不思議な魅力と輝きを抱いたこの作品は一部に〝認めない〟という批評もきかれるが、映画評論家たちの評価は相当に高い。若松孝二監督の並々ならぬ力量とともに足立正生のシナリオの巧さによるところも大きい。そして、主演の志摩みはるの強烈な演技と女体恍惚美ともいえるすばらしさである。

女体を前衛する

「芸者」(国映配給)観世亜紀・野上正義

濃厚なラブシーンだけで客は呼べない

——後藤 敏

「処女生態」の美矢かほる

製作費を切り詰めるだけ切りつめ、いかにしたら安くあげるかということだけに腐心しているのが、最近の製作者、配給業者の態度である。

作品自体の出来いかんについては、一切目をつぶっているのだから、情ないことこの上ない。

これも、製作本数にくらべて、上映館の数が極度に少ないため、配給コストが安くなる一方で、安いコストで映画を作る以外に商売にはならないと決めてかかっているからだ。

だから、これはイケると、思わず手をうちたくなるような作品にぶつかることは、近ごろではめったにない。最近の成人映画ファンの多くが、アタマにきていることは、想像にかたくない。

客の数が減った。映画館側では、プリント料を安くしてもらわなければ商売にならないといって、安くたたいて買う。だが、問題は、なぜ客がこないかということにある。

お色気シーンが単調だ、ハダカが少ない。興行者は、それが原因だと思っている。作品の出来そのものが原因であることに気づいていない。出来の悪いフィルムでは、スクリーンでどんなに濃厚なラブシーンがくりひろげられていようと、客がアクビをし、バ声を浴びせていることに気づいていない。

最近作を例にあげてみよう。

新藤孝衛監督の「泥だらけの制服」ぐれた女子高校生とその仲間の扱いが、通り一ぺんの原宿族ふうで工夫が足りない。

「処女生態」は、ベテラン小森白監督の作品だが、あの手この手で美矢かほるのベッド・シーンを見せるだけで、実にお粗末な筋立てだ。

ヤマベ・プロの「縄と乳房」も、とりえは新高恵子のサディストぶりだけ。まことにさびしいかぎりの今月の成人映画だった。

猟する時』を考察する…

陽の目を見ない「胎児が―」に見る若松孝二監督の主張――――

すでに大阪地区で上映している若松孝二監督の「胎児が密猟する時」（若松プロ作品）がいま注目されている。

この作品はきょ年の夏に製作した若松プロの自立作品だが、試写をみた配給業者や館主たちが、その内容の強烈さに、上映に二の足をふみ、東京地区ではいまだに未公開の作品。しかし商魂たくましい大阪の配給業者が、大阪地区で公開し、評判となっている。完成間もなく、この作品を高く評価した一部映画評論家たちから大きく支持されているもの。

本誌11号（41年9月）でもこの傑作を評価したが、雑誌「映画評論」誌（三月号）でも66年のベスト・テン選定でこの「胎児が密猟する時」が六位に推され、映画をみた四人の評論家がいずれも8点以上、中には10点満点をつけるという評価の仕方をしている。「この圧倒的な重量感、邦画不振どころの騒ぎでない」「どこからあのようなイメージを絞り出したか不思議なくらいのものだ」といい「男女間の間における支配、被支配の痛烈な関係は単純化した構図で示したもの」と評し、「大方の目に（批評家たちの）触れなかったことは、なんとも残念でならない―」としている。

この判然としないタイトルは鞭の響きにつれてのたうつ女の動きは、そのまま産道を通過する胎児の状態の再現であり、その胎児が鞭（猟銃）によって密猟される状況を示すのだという。

男のマザーコンプレックスであり、女を飼育する状況であり、現代の男性が去勢された反動であり、サディズムの凄惨な昂揚と明快な論理性などこの作品からいくらでもすぐれたテーマが摘出される。

最近、武智鉄二監督作品「黒い雪」の裁判のさなか、この「胎児―」が、弁護―検察側の参考に資するため試写をもたれるなど、さまざまの面で注目されはじめたのは事実だし、「成人映画」がより高く密度の濃い作品に進展していくためにもこの作品が幅広く公開され、評価されることを望みたい。

そうした意味で、この「胎児が密猟する時」を映画評論家の長谷部日出雄、矢島翠、斎藤正治、佐藤重臣の各氏に再評価してもらった。

特集『胎児が密

若松孝二の独立宣言

ピンク映画の中にこそ真の映画の可能性があることを指示した作品だ

長部日出雄

「胎児が密猟する時」は、一人の男が、一人の女を、一匹の犬に飼育していく物語である。

主人公の名前を、丸木戸定男という。これは、マルキ・ド・サドのモジリだ。サドは、ムチを武器として、人間の真実をあばき出した芸術家である。

この映画でも、丸木戸定男はデパートの女店員を裸にして、「お前は犬だ、お前は犬だ」と叫びながら、ムチをふるって女を一匹の犬に仕立てていく。女は、ついに本当の犬になってしまう。キャンキャン喚きながら、四つんばいになってオシッコをする。

女は、丸木戸定男によって犬にされたのか。そうではない。女はもとから犬だったのである。有名な〃パブロフの実験〃では、犬にベルを鳴らしてから食物を与えると、しまいにはベルの音を聞いただけで、犬は唾液を分泌するようになる。何も考えず、周囲の状況に条件反射的に適応して、ただ食っている女は、このパブロフの犬と同じなのである。

丸木戸定男は、女を犬に変えたのではなく、ムチによって女が本当は犬であることを自覚させたのだ。そして、デパートの女店員が、自分の生活が実は「犬の生活だった」と気がつく時この映画を見ている私たちもまた、私たちの生活が犬の生活であり、私たちも犬であることを、若松孝二によって、いやおうなしに知らされるのである。

この映画でムチをふるう加害者丸木戸定男は、若松孝二自身である。彼はムチで、世の良識に徹底的な攻撃を加え、良識の持つインチキ性を暴露する。そして、被害者の女もまた、若松孝二自身なのだ。

ピンク映画は、これまで世間の良識から指弾され、迫害され続けてきた。この映画の中の女と同じように「お前は犬だ」といわれ続けてきた。だが、この映画の後半にいたって、女は自分が犬であることを自覚した瞬間に、突然、被虐の底から立ち上がって、凄まじい攻撃に転ずる。被害者は逆にナイフをふるって加害者を刺す。全身返り血を浴びて、血まみれになりながらメチャメチャに刺す。この逆転劇のダイナミックな迫力は、これまでの日本映画になかったものだ。

「胎児が密猟する時」は、世間から疎外されているピンク映画の中にこそ、真の映画の可能性があることを示した。映画作家若松孝二の「独立宣言」である。

この映画で見せた若松孝二の力量は、まさに瞠目に値いする。おそらく当の若松自身、これほどの映画は当分作れまいと思われるほどだ。

「胎児が密猟する時」は、これからの映

画の方向を指し示し、同時に、長く映画史の中に残ると思われる傑作である。しかも映画独自の娯楽性にも富んでいる。
若松孝二に望むことは、この映画が彼の「到達点」でなく、「出発点」であってほしいということだけだ。

（映画評論家）

変心のうた

映画のもつ恥知らずの力をフルに使って観客を圧倒するすさまじい迫力

矢島翠

ひとつの部屋、
ひとりの男。
ひとりの女。
ひとつの寝台。
いわゆる〝エロダクション映画〟を作るのにこれは必要、最低限の条件です。その限られた壁の中で、若松孝二は普遍へと向かってひろがって行くひとつの世界を築いてみせました。寝台の上でひとりの男は男であるだけではなく、ひとりの女は女であるだけではない。男は父になり、兄になり、息子に変身します。女は母に、娘に、妹に、そして恋人に変わります。それは呪術も仮面もなしに行なわれる変身の劇であり、ふたりの人間が切子細工のように、みずからの多面な姿で相手を照らし合う秘儀の時間です。母子相姦の息づまるような熱さも、手をとり合う兄妹のやさしさも、そこにはふくまれています。無慈悲な暴君のムチと女奴隷の忍従も、あるいはその逆の関係も。

ふつうのエロダクション映画のつまらなさは（といっても余り見たことがないので類推で悪いけれど）、男は男、女は女として、それも寝台の上で男はこんなふうに動き、女はこんなふうに反応するものだという定石に従ってしか描き出さない点にあるのでしょう。いわばエロチシズムの世界における〝期待される人間像〟に従って描いているようなもので、国家が作り出す期待される人間像がツマラナイと同様、それではつまりません。

この映画のユニークさは、定石を破って、寝室のなかでの人間の変身をゆたかに描いた点にあると思います。しかも定男とゆかは、愛し合ってはいない。恋人や夫婦が儀式化して、あるいはなれ合いの上で行なう変身にたどり着くために、ふたりには暴力という通路が必要でした。

スクリーンでこれほどしつこい暴力が描かれたのは、多分始めてではないでしようか。このしつこさは常識を越えている。平凡な人間の中にもひそんでいるサディズム嗜好をこころよく充たす、といったていどのものではありません。このしつこさは不快です。修道僧の苦行のように、だからこそサディズムは必然性を持っています。売らんかなのためのくすぐりではなくなり、そのしつこさは観客を圧倒し、途方にくれさせるのです。

しかも若松監督は肉体の暴力とともに、さらにすさまじい精神の暴力も忘れてはいません。ひとりの人間の意志を、誇りを、そして飢えと排泄までも支配すること。――歴史の流れの中で強大な権力者たちが時に実現するに至った残忍な夢を、定男は東京の殺風景なアパートで自分の

ものとする。彼の夢に組みしかれたゆかは、それでもすきを見て支配者を裏切り、ふと彼を愛し、最後には殺す。暴力に耐えるだけの暴力のエネルギーはまた、被支配者の中にあることの燈しです。

それらのすべてを、犬の遠吠えから子守り唄までふくむこの映画は、映画が持ついわば恥知らずな力をフルに使って、私たちに〝見せて〟くれるのです。

（映画評論家＝共同通信記者）

死闘の儀式

邦画ベスト・ワンにためらいなく推せる一級品

斎藤正治

若松孝二は大変なモラリストであり、フェミニストでもあるといったら、読者諸君はお笑いになるか。「胎児が密猟する時」の飽くなきサディズムがモラルか。志摩みはるちゃんをミミズバレにして、それでもフェミニストといえるか。

詭弁でなく本当なんです。おピンク映画の観客である諸君だってこよなく愛すべきモラリストであります。性と復讐をテーマに、若松孝二は新しい映画作りにいそしみ、諸君は若松の試みにカッサイする。作者と観客の間には、映画館のクラヤミを通して、既成の映画では経験できない交流と秩序が成立します。そのとき諸君はマタグラに手をあてながら新しいモラルを夢みて、その担い手に化身しているのです。

おピンク映画館にはいるときのエモイワレヌ胸のときめきは格別です。このさだかでない格別の感情は、映画観賞にとって、欠かすことのできない貴重なものであると、私は思っています。大手五社の映画館に、この種のときめきを感じなくなってすでに久しくなります。どれもこれもテレビと大同小異のことを写しており、むしろテレビに似せることで、思想とそして興行の安全性を獲得しているかのようです。バカなことには獲得と代替に、お客というかけがえのないものを喪失してしまいました。そのような安全性に対して、おピンク映画は危険性・犯罪性を強調することで、映画の今日あるべき姿である〝クラヤミのゲイジュツ〟の位置を守っているのです。おピンク映画の理解者であり、真の映画ゲイジュツファンである諸君に、いささか説教じみたことをいいました。失礼しました。

「胎児が密猟する時」は危険性・犯罪性たっぷりの作品であることも含めて、まさにゲイジュツ品であります。密室での犯罪がこのようにストイックな感情をよびおこした映像を私は知りません。受験浪人ものにご熱心だった若松孝二の新しい思想を私は見たのです。

丸木戸定男君（マルキ・ド・サドのもじりでしょう。気に入りました）は一対

一の性の多面的な格斗のなかで、原始的な生のイメージを凝集しようとしているようです。男は女の精神や性をリョウジョクし、ひれふし、あるいは胎内回帰を願い、そのような格斗の果て、至福と絶望を同時に獲得します。女ははずかしめと征服を狂気のなかで達成します。両極が隣合った密室の死闘は、男よ（あるいは女よ）お前はナニモノかを問う儀式の展開にほかなりません。

私は「胎児が密猟する時」を昨年のベストワンにためらいなく推しました。ベストツーは「白昼の通り魔」です。このベストテン表がのった雑誌をみた友人から「お前のような正常なヤツがおピンク映画をベストワンにするとは―」というからかい半分の電話がかかってきました。私は即座に厳粛な声で答えたものです。「俺はマトモだから推したんだ」。

「胎児が――」のラストは、無気味な犬の遠吠えでなく、テルテル坊主の哀愁の歌でおわります。雨に監禁された彼女は、明日晴れることを願っているのか、死闘のあとの物悲しい歌は、解き放された讃歌だろうか。私は若松孝二のモラリズムをここにもかいま見たのでした。（映画評論家＝共同通信記者）

傑作「胎児が密猟する時」

意気込みと情熱が困難な映像の両現を可能にした

佐藤重臣

「胎児が密猟する時」は、おピンク映画史に残る実に不思議な映画である。イヤ、不思議さをとおり越して、今も、これほど意欲に溢れた映画はないといってよいほどの力感が作品にみなぎっている。

ユニークな作品をしばしば探してくる「映画評論」誌では五社の作品をおしのけてベストテン第六位の地位をこの映画に捧げているというのも、決して安易なかつぎあげでないことを、改めてここでいわなければいけないだろう。

「胎児が密猟する時」は、題名からしておピンク映画にふさわしくない不思議な

感じを与える。これにはこんな意味が考えられる。
　つまり、我々、人間どもは生まれた以上、母親の胎盤のなかにもどることはできない。あの母親の胎内のぬくぬくした住み心地のよさ。
　そこにもう一度もどりたい願望に現代人はとりつかれている。これを「胎内回帰の思想」というのだが。
　我々はそのような胎児のような精神年齢を保持したままこの世に生きている。母親の胎内にもどれないというならせめて、我々に安らぎを与えてくれるはずの女どもはなにをしてくれたというのか。こう考える時、主人公の丸木戸定男は怒りがこみあげてくる。
　お前たちは共同便所みたいなものじゃないか。いうなればクソ袋なのだ。
　ウンコたれて、メシ食って、オシッコして、それ以上になにをしたというのか。主人公の丸木戸定男はデパートガールの志摩みはるをマンションの一室にひきずりこみ、全裸にして、サド侯爵伝来のムチをふりあげる。
「お前は犬だ！、犬になれ！」と、ムチは白い肌めがけて鋭くとぶ。彼はそのムチによってこの世の洗滌をこころみるのだ。
　この映画の主人公はわずかふたりだけだ。しかも場所はマンションの一室に限られている。
　それにもかかわらず、この映画が全篇張りつめたサスペンスがあるのは、そのまま、我々が現在生きている状況が二重イメージになってかぶさってきているからだ。
「胎内回帰」できない人間どもは、だれもこじあけてくれない現代の閉鎖状況に向かってムチをふるいあげ、そしてムチを迎えうけねばいけないのだ。このドラマを支配階級と被支配階級の葛藤とみるのも、またいいだろう。
　だが、それよりも、この世にあるはずの純粋性を信じ、サドのムチが現代に再現することを合い願うように「我々も犬なのだ！そしてもう少し、人間らしく我々は、たちもどれないか」という反語をここで汲みとれないものであろうか。
　この映画の封切は、まだ正式に決定していない。しかし、五社のダラカン映画などはるかに超越した緊張が、この映画にはある。こういった作品をみる時、映画にどんなに制約を受けても、行者の意気込みと情熱があれば、困難な映像を身払することがよくわかる。
　この前、若松プロ「裏切りの季節」が自主ロードショーしてようやく陽の目をみたが、またまた、このような名作が一般の興業者に敬遠されて、自主ロードショーせねばならぬような気運にあることになんとしてもダラシのないことである。
（映画評論家＝映画評論編集長）

「胎児が密猟する時」に関する製作覚え書き＝若松孝二

●「胎児が密猟する時」のイメージの発酵は、現代の社会的状況の中で〈犯罪〉という概念化された人間性の〈情念〉の原理を、きわめて限界された人間感情の中で深ってみたいというところに出発点があった。

つまり、極限状況とは人間性にとって何ものであるか。——それは、時には人間存在の危機〈死〉との対話を計る機会であり、そうすることによって逆に始めて〈人間性〉の何たるかが現われてくる。

●東京の上空を常におおっている曇天のように、現代生活の中でじわじわと、しかも着実に累積してゆく〈人間性〉への疎外。

思想的にしろ文化的にしろ、現代という文明の〈人間性〉におよぼす不毛さ。——それは、局地戦争や交通地獄やその他のあらゆる一般的な一見〈人間性〉の〈個〉の部分には直接触れ得ない現象への、〈人間性〉の挑戦ではないだろうか。そこまで巨視的なアングルを持つことは可能か。

むしろ、問題を普遍化することによってぼやけて行く〈人間性〉の主題の拡散が生起する。それよりも、やはり〈情念〉の深みへ引きずりおろすことによって〈人間性〉を確かめる微視の世界のほうが、より正確にイメージを持てるだろう。

●右記の指向をすすめながら、一つの寓話が語られて行った。

当然、それは〈個〉の闘争を浮き彫りにする男女の葛藤が内容となる。いや、男と女が、男自身であり、女自身であろうとする闘いの中で、それぞれ、男と女から脱却し〈個〉へたちかえってゆくドラマとなる。

男と女の間によこたわる問題。

それは愛から性へ。性から愛へ。存在から非存在へ。非存在から更に新たな存在へ。…… 限りなく揺れ、定まりなく変身が続き……そして〈個〉と〈個〉の対決へと昇化されてゆく。

●〈個〉根源から発動するもの。あるいは、それは愛の姿となり、欲の魂となる。しかし、もう一つの〈個〉との間に〈情念〉として表現される部分は、愛でも欲でもない。——それは何か？

「胎児が密猟する時」のイメージは、愛と欲の表現として、サディズムとマゾヒズムの相姦関係を置くことに結論した。

映像表現の上で、時間と空間をもっとも緊密に限定してゆく方法は、そこにしかなかったのである。

この実験が成功した部分があるとすれば、その指向の正確にある。

失敗した部分があるとすれば、映像表現の可能性を十分に汲み取れなかった方法上の甘さが指摘される。

とにかく、「密猟する」実験は一つの段階を、映像表現の可能性の一部を発掘することには成功したと考える。

原初に抱いた制作意図に照らして、そう考えているのである。

女優・達見典子

小山明子にチョッと似たところがある。電話交換手、ウェイトレスをやり、三ヵ月前にこの世界に飛びこんだばかり。「泥だらけの制服」でセクシーなところをお目にかける。一人娘で手芸が大好きなそう。十九才。

達見典子 T.Noriko

うわ！忘れちゃった。ごめんなさい！

〈スター訪問〉

美矢かほる

美矢かほる―タンマの愛称があるグラマー女優。よく大器晩成型だ―といわれるが、その通り大器の素養と、最近になってボツボツ演技の成長と美しさを増してきた。女優の交代期のことし、美矢によせる期待が多い。そんな彼女の向島の自宅を訪ねてみた。
下町育ちのきさくさ、おおらかさは彼女の部屋の好みからにじみでている「バナナが大好き―」なんてのもピタリである。

ファンレターを読むタンマ

ウイットのある素直な悪女

彼女ほど、ウイットを解し大陸型の気分をもった女優もこの世界では珍しい。のんびりしている―とみえていてなかなか神経が細かい。

「なんだオマエ・バッキャロー」なんて怒鳴っても、「疲れて帰ったらしいけど、そのくらい元気のある声出したら大丈夫ね」などと、やんわり、逃げて、ケロッとしているようなムードとウイット性を持ち合わせている。

こんな女性を女房にもったら男性はもっとオダヤかになれるだろう。ところでセックスのほうはどうだろう。なにしろバーンとしたボリュームの点ではソフィア・ローレン張りである。ヒップ90、バスト88、体重54キロ。「ベッドに並んだとき、相当にハンディをつけられてかないませんでしたよ」とは相手になった男優クンの告白でした。

「オイ、一丁いこうやないか」と彼氏がさそいをかけると「もうとっくに用意はできてるわよ。さて医学カードなんか実戦の役にたたないしね、あなたいいコンテ、どっからか盗んできた？」

ダーアである。まずこんなセリフぐらいはパッとでてくるような女の子、それが美矢かほるなのである。

アワテない、アワテない。ちゃんと先を読んでいる。怒ったこともない。こちらが怒ってもカクゴはできているから手に負えん。美矢かほるはエエ女である。

× ×

彼女のアパートを訪ねたらちょうど、徹夜をおえた朝帰り、ドアをあけた彼女がYシャツ姿で出てきた。

ギョッ！「実はネグリジェみんな一ぺんに洗ったら、着がえないからYシャツをパジャマにしたのよ」とケロン。

さては彼氏の奴だろ！

「あたしセーターもシャツも男もの買って着るのよ。そのほうが好きよ」

グラマーならやはり男物のM版がピタリサイズにあうということだ。

じゃパンティは？

「あら、やンだぁー。それは女のコのものよ。一度ね、あなたのパンティ洗わないの送ってくれっていうファンレターがきたの」

そのとき彼女はどんなウイット性を試みるだろうか。

「そのときはね、パンティにマジックインクでHと書いてあげようか」この子ニクメないねえ。

× ×

「禁じられたテクニック」でみせた虚脱と女のあわれさを演じた好演ぶり。もっともすぐれた彼女の作品だった。

ことしは努力次第で彼女の年になりそうである。

女らしい情感のある美矢かほるさん

しねまわいだん

この世の春を謳う〝春歌〟もの

映画「日本春歌考」がヒットしたが、これよりさきに春歌フォノシートが目下大変なブームで、いまや「春歌時代」。

「日本春歌カード」が発売（ふらんす書房刊六八〇円＝新宿区百人町二の一〇六遠藤ビル）されれば「春歌艶歌傑作集」（ロマン書房刊八〇〇円＝中野区本町通三の二四）が追いうちをかけるようにして出た。

「こうしたものを知り、身につけるのは現代人の生活の知恵でしょう」と発行者は必然性を強調する。

お座敷ムードの日本春歌カードは、カラーのヌード・カード二十四枚、カラー浮世絵カード二十四枚、それに三枚のフォノシートに収めたお色気替え歌のヒットソング二十曲からなっている。

遅ればせながら発売して、若い層の人気をさらっているのが「春歌艶歌傑作集」。

二人のモデルを組み合わせた大判の特写カード三十二枚（カラー八枚）それに日本の代表的春歌艶曲から最近のものまで三十一曲と、特別録音の「私の身体は一つの楽器」「シンフォニー・オブ・セックス」のフォノシート四枚がセットされている。さらにカードの裏面をあわせれば、等身大のヌード

スターになる条件

＝全裸でリンチされる一星ケミ＝

リンチシーンがこのところグッとふえているが、上の写真も向井寛監督の「夜の悦び」（日本芸術協会・関東ムービー配給）でのリンチ場面。ときは昭和九年。凶作で女郎に売られた一星ケミが遊廓から逃げようとして、ハダカのまま吊るされてリンチされる。

絶叫と悲鳴とムチの音、これまでも「肉体の門」で野川由美子、「裏切りの季節」で谷口朱里が全裸でリンチシーンに取り組んだが、ハダカでリンチされると売れっ子になるらしい。この一星ケミクンもその点、可能性があるんじゃなかろうか。

■「本能」で好評だった新藤兼人監督が、再び続篇ともいうべき「性の起源」を近代映協製作、松竹配給でクランク・インした。主演が殿山泰司、乙羽信子、松尾嘉代、京都、鳥取地区などでロケし、六月下旬アップの予定。

■似たような題名ばかり多くていっこうに新味がないのが、近ごろの成人映画の題名だ。そこで東京興映では成人映画向きの斬新な題名を一般から募集することになった。採用分には薄謝を進呈。送り先は銀座東四ノ四畜産会館内

■映画界を去った新高恵子が住所を池袋から四谷のアパートに移した。目下は歌のほうに全力投球で、寺山修司の作詩でレコード吹き込みを準備中とか。曲り角にきているピンク女優も多いこと。果たしてその先鞭をつとめることができますかな。

■このところ城山路子はもっぱらバー「リズ」の経営に専念している。客足が絶えず、ニッパチなどどこ吹く風の繁昌ぶり。映画の仕事は当分控えて、男性どもをアルコールで悩殺していこうというもの。

■歌にウェイトをかけていた内田高子が久しぶりに向井寛監督の「夜の悦び」に主演したが、いい作品があればまた映画の仕事をしたいといっている。二月いっぱいは北海道一帯の主要都市で歌をうたいまくった。

そして、近く新宿でバーを開店させるそうで準備中だ。多角経営、けっこうですな。

■渡辺護監督が三ヵ月ぶりで「情

になるといった趣向もこらされ、女性のうけもよい。家庭の、男女間の潤滑油としておすすめしたい。

ともに美しい箱に改められているので、贈りものとしても喜ばれよう。書店、レコード店にある。

ヌード（右）と浮世絵（左）の春歌カード

ピンク女優へのファンレター公開

「ピンク女優へのファンレター」というのを漫画読本（3月号）でとりあげている。

大学生から大学教授まで、幅広いファン層をもつピンク映画、その女優さんに恋慕と欲望の言葉を送るファン気質を紹介するというものだ。

「私は二十才の大学生です。君のその豊かな乳房を吸い、そのバラの口に激しくキッスをし、そして最後にパンティを取り、私の口で君のソコをなめ、そしてペニスをグッと突っこむ、そんな夢をいつもみています。（中略）」これは差し出し人不明で香取環さんのところへきたファンレター。

「ハダカのところと、パンティをはく（脱ぐ？）ところと、ふろにはいるところと二枚ずつカラー写真でうつしてゆずってください。頭をさげてお願いします」これは内田高子さんのところにきた手紙だ。

『〝女高生地帯〟のベッドでのキスシーンは強烈でしたね。舌を相手の口に入れてのキスシーンはリアルすぎて、一瞬ドキッとしましたよ」と一週間に一度は批評をくれるというのが新高恵子ファン。

「ぜひ貴女と寝てみたい、きっと真のセックスとはこんなものだろうということを教えてあげます。×月×日午後八時Pホテルの二〇八号室でお待ちしています。ではホテルで」と差し出し人の名前なしで香取環さんへ。「封筒の中にコンドームがはいっていてビックリ」（可能かづ子）「変なシミがついてきた」（谷口朱里）というのや純情型、作品批評型とさまざま。いやはやである。（カットは漫画読本のサトウサンペイの画）

紅千登世のピンアップ

夫と情婦」（東京興映）をクランク・インさせる。保険金目あてに殺人を犯し欲と色に自滅する話。パートカラーで、主演は新人を起用する。ピンク女優もマンネリ化した。期待しよう。

■漫画読本のピンアップはこのところもっぱら成人映画の女優をモデルにしている。3月号のモデルは「黒い雪」に主演した紅千登世。オブジェの女体で、清純なところがミソ。21才になり、女らしさが一段と増した感じだ。（写真上）

今月の新作紹介

スクリーンエロチシズム

「戯れ」でショックな演技を見せる大月麗子

戯れ
＝関東映配配給

▼三人の女の恋と欲望の情事絵巻

信州の旅館の一室でお手伝いの光子（飛鳥公子）は東京からのお客平田（長岡丈二）に抱かれていた。東京の人の嫁になれるという思いで幸せだった。光子は上京しアパートを探し当て押かけ女房にと心はずませ、彼の帰りを待ったが帰って来た男は中沢（港雄一）という別の男だった。

東京の三業地近くにおにぎり屋をやっている平田は独身を最大限に利用している男だ。料亭の女将（藤ひろ子）や芸者まり子（大月麗子）らもやはり、平田と結婚を夢みて張り合っている女だった。

製作＝青年群像
監督＝山下　治

芸者
＝国映配給

▼産婦人科医に通う美人芸者

温泉町の産婦人科医福田（神原明彦）のところには芸者の患者が多かった。美人芸者のメ奴（美矢かほる）や土地の女親分雪代（谷口朱里）もやってくる。ある日、藤田組の組長（里見孝二）が視察にやってくるがお座敷ストリッパーの和江（綾瀬マキ）の体に魅せられてしまう。雪代親分一の子分矢挙（奈ヶ岡信）は嫌がる和江をつれてくる。これを知った雪代は和江を取りもどすが、それがもとで藤田組長の気嫌をそこねてしまった。一方、雪代の妹美代は矢挙におかされ、福田医院でもと通りの処女に治してもらうが条件は雪代の体だった。製作＝新日本映画　監督＝関　孝二

情欲の黒水仙」の向井まり

「芸者」で悩殺スタイルを見せる美矢かほる

情欲の黒水仙 ＝六邦映画配給

▼黒い蟻地獄に落ちた美しい人妻

山上恵子（向井まり）は中島（野上正義）という若いツバメと情事にふけっていた。しかし情事のシーンはすべて写真でぬすみとられていた。恵子は電気会社社長（佐伯秀男）の妻だ。中島はその社長の秘書であり、狙うのは恵子の肉体ではなく金だった。しかも写真をライバル会社の産業スパイに売ればいいのだ。「金になればいい。自分と恵子の情事が公開されたら会社もつぶれてしまう。そんなことはどうでもいい……」

中年女の淫奔きわまりない乱行のかずかず、それを利用する若いツバメなどがおりなすサスペンスドラマ。製作＝若松プロ・監督＝若松孝二

惨忍 ＝東京興映配給

▼一人の女をめぐる怨恨と痴情のからみあい

旅館の主人（九重京司）は若い後妻邦江（松井康子）に夜ごと変質な暴行を加えては欲望を満していた。一方、邦江のほうも先妻の息子研二（二階堂浩）と旅館の財産をねらっていた。二人は女中の友子（美矢かほる）がこの秘密を知っているのではないかと不安になり、研二は友子を犯してしまう。また、研二は年上の邦江にもあきてしまい女中の和子（真湖道代）とも関係をもつ。ある日吉村（里見孝二）が投泊する。吉村は友子の兄だった。女中の夏子（千月のり子）から自殺の原因を知り、研二と邦江をおびき出し立木に縛り責めたてるのだった。監督＝小森　白

「惨忍」で濃厚な演技をする松井康子→

「女の責め」で狂気の女になる清水世津

女の責め =日本シネマ配給

▼だまされ捨てられた女の狂った復讐

佑子（清水世津）は二十才の時、恋人行夫とのはじめての抱擁に胸おどらせていた。が突然行夫の態度が変わり佑子を縄で縛り、かげにかくれていた仲間の三人で輪姦してしまう。何年かすぎ東京でタイピストとして働いている佑子は何人もの男を恋し裏切られ、そのたびに「どうしてこんなことをするの?」と心に問いかけるのだった。ある日デパートで仲のよい夫婦の姿を見かけ嫉妬を感じる。その男（鶴岡八郎）の顔が過去に逃げていった男達の顔とダブり、男をアパートに誘い睡眠薬をのませしばりあげ、狂ったように犯すのだった。

監督=山本晋也

牝狼 =国映配給

▼鉄火な女スリが知った悲しい女の性

その界わいでは顔の知られたスリのお竜姐御（加山恵子）は子供のときから面倒をみ、いまでは愛人にしているスリの親分勇造（田中謙二）に育てられた。三十才の豊満な肉体と器用な指先できょうも中年紳士のフトコロをねらっていた。仕事をおえたお竜の前に立ちふさがった青年譲二（山本健二）はスリの現場を見たと叫んだ。お竜は身の証をたてるためホテルにゆき一枚一枚洋服を脱ぎ豊満な肉体を惜げもなく見せるのだった。お竜の素晴しい体に目をうばわれた譲二は体を求めた。

製作=ぐるーぷシネフロント
監督=竜神 昇

「禁断の情事」の美矢かほる

鉄火の女を演じる「牝狼」の加山恵子

「密室の抱擁」の麻里亜子

密室の抱擁 ＝大蔵映画配給

▼アパートの密室で妄執にとりつかれた中年男の異常な計画

働きのない伍市（中真二）は四十才になるがいまだ独身で薄汚ないアパートで内職をしていた。室にとじこもっている彼の心は次第に卑屈になっていた。そんなある日、アパートの下をいつも通る女高生純子（山本順子）に興味をもち毎日眺めては楽しんでいたが、欲望と衝動から順子をうばう計画をする。うすぐらくなった校門の近くで後からコートをかぶせ強引に部屋に連れ込むが、前から狙っていた順子ではなく真佐美（麻里亜子）という別の女高生だった。こうなったら相手はだれでもよかった。

製作＝武田プロダクション・監督＝武田有生

禁断の情事 ＝大蔵映画配給

▼産業スパイに体をうばわれた若い女

宮口信子（美矢かほる）は部長の田島（鶴岡八郎）から重要書類の整理を頼まれ自宅に持って帰るが、アパートの前で見知らぬ男達に連れ去られ体と書類を奪われてしまう。数日後、田島は奪われた書類をもってくる。某産業スパイに奪われていたのを五百万円で取り返してきたのだった。彼女は田島に迷惑をかけたことが重荷である。待合いに誘われビールをのむがその中には多量の睡眠薬がはいっていた。彼女の身体を人形のようにもて遊ぶのはライバル会社の村上（飛田八郎）だった。スパイの親玉は実は彼女が信頼していた田島だったのだ。

監督＝小川欽也

OPチェーン映画ガイド

3/21～3/27	昼下りの逢びき（日本シネマ）	いそがしい肉体（大蔵映画）
3/28～4/6	花の色道（大蔵映画）	泣きぬれた情事（葵映画）
4/7～4/14	情事の階段（関東映配）	女の歓ぎ（大蔵映画）
4/15～4/21	人妻の実験（六邦映画）	悶　絶（日本シネマ）
4/22～4/29	女子寮日記（関東ムービー）	激情の乳房（大蔵映画）
4/30～5/9	現代性医学（大蔵映画）	無軌道女性（大蔵映画）

▼クイズを復活して下さい

創刊号より毎号愛読し、ピンク映画の大ファンです。毎号の新作紹介は親切で映画を見にゆくときの参考になりとても便利です。第十四号まで掲載されていましたクイズで一度賞品を送ってもらい、机の上に飾っています。十五号にはクイズのページがありません。クイズを楽しみにしている一人として残念です。十六号よりぜひクイズのページをもうけてください。（岡山県・一読者）

▼香取環さんの家庭訪問を

私は当年五十才だが、毎週カジ橋座にゆくのを非常にたのしみにしています。特に香取環の大ファンで、彼女の映画は見逃したことがありません。彼女の私生活があまり知られていませんが、ぜひ家庭訪問をのせてください。十五号の座談会は大変おもしろく、俳優さんの考えがよくわかった。でも俳優さん達もシナリオとか監督のせいばかりにしないで自分自身をもっと大切にしてほしいと思います。（東京・S生）

成人映画

■編集後記

▼本号からオールグラビアに紙面をかえた。本誌の本来の姿にかえったわけだが、美しい紙面を作る―という目的を追及してみたい。次号は特別増刊号で斬新な内容にし定価は二百円の予定です。（X）

▼ピンク映画界も企画の貧困と安易な製作態度から、完全なマンネリにおちいっている。のべつまくなしラブシーンを繰り返すだけの映画には、観客の欲求を満たすことができない。特集「胎児が――」で長部氏が指摘するように独立プロにこそ、本当の映画の可能性がある――ことを関係者は肝に銘じてほしい。（I）

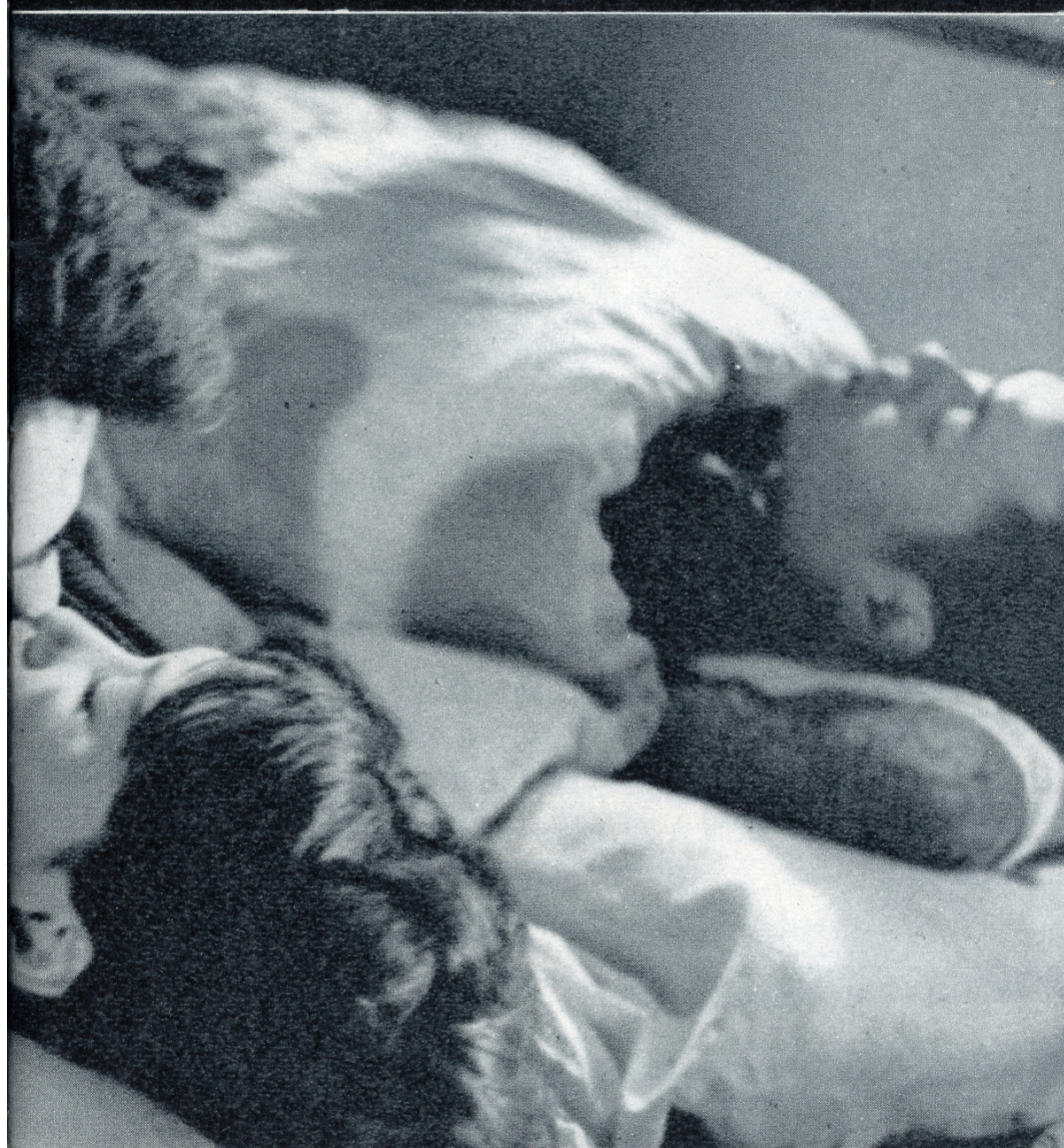
▼「成人映画」ファンのご要望に応えて、本誌がピンク女優を特写した〝セクシーヌードポーズ集〟の写真をおわけします。キャビネ版五枚一組で送料共千円。現金書留か小為替で送金下さい。

■昭和42年4月1日発行　通巻第16号　毎月1回1日発行　編集兼発行人／川島のぶ子　発行所／東京都中央区銀座西8―10　高速道路ビル地下101号室　現代工房　電話／東京（571）6400　■定価百円

スクリーンエロチシズム

■新鋭監督が描く問題作の中のSEX

「女の責め」(日本シネマ)は内的な女の加虐性がどう行動に現われるかを投映してみようという異色作。裏切られてばかりいる女(清水世津)が妻子ある男を縛りあげ、セックスの征服と満足感にひたるところから狂気の女に進行してゆく。異外性のドラマとして山本晋也演出に注目したい。

ムービー)感じやしい女学生(真湖道代)が母の情事と義父の素行を体験し、青春を突
のはなにか——新藤孝衛が正攻法なタッチで描く青春ドラマ

⬆ひたすら娯楽路線で—というのが向井寛監督の「夜の悦び」(関東ムービー)女親分でもやはり恋とセックスにモロかった—という役が内田高子。

⬅やつぎ早に仕事をつづける向井寛監督のバイタリティぶりはいまや独立プロのトップの働きぶり。「昼下りの逢びき」(日本シネマ)は銀行強盗犯の一人(武藤周作)が偶然出逢った初恋の女(飛鳥公子)を道連れにして逃走、全員自殺のラストを迎えるサスペンスドラマ。

⬅「泥だらけの制服」(関東
つ走って、そこで摑んだも

春とともに一斉に新鋭監督たちが冬眠からさめて始動した。向井寛監督が「昼下りの逢びき」山本晋也監督が「女の責め」若松孝二監督が「口紅」「狙い」新藤孝衛監督が、「泥だらけの制服」といった具合だ。

ことしは従来のピンク映画から一段高い時点の作品、意欲的な内容のものが要求されているさなか、これらの新鋭どころが、いかに質的に評価され、注目される作品を生み出すかにかかっている。

始動した新鋭監督たちの近作の一コマを紹介しよう。

美人でグラマーで電気クラゲみたいな女。ヒモになるには格好の女だ。どこの世界でも現在いちばん幸わせな男はヒモである。ベルモンドは〃ヒモ人生〃を演じ、彼にみつぐ女がこのミレーヌ・ドモンジョである。現実には不可能だからせめて映画でも見てヒモの気分でも味わったらいかが？（東和配給）

「タヒチの男」のドモンジョ

関東地区成人映画上映館一覧表

大阪地区成人映画上映館

難波
- 千日前オリオン座 (641) 5477
- 千日前新オリオン座 (641) 5477

西淀川区
- 野里リボン座 (471) 1082

阿倍野筋
- 阿倍野名画座 (641) 5885

福島区
- 吉本キネマ (451) 6793

布施市
- 布施映劇 (721) 499

城東区
- 放出シネマ (961) 0664

守口市
- 守口セントラル (991) 0049

東淀川区
- 十三若草劇場 (301) 5929

天王寺区
- 鶴橋松竹 (761) 9752

都島区
- 都島会館 951 4651

北区
- 天六映画劇場 (351) 9138

大阪駅

名古屋地区成人映画上映館

- 浄心ハイツ (531) 4118
- 上飯田劇場 (991) 5714
- 守山瓢映 0560-79 2082
- 栄生グランド劇場 (551) 6379
- タカラ劇場 (941) 6076
- 堀川映画劇場 (231) 0193
- 今池フジ (731) 4763
- 太閤劇場 (551) 2353
- テアトル希望 (541) 3044
- 曙文化劇場 (731) 3806
- 日活シネマ (241) 2345
- 鶴舞劇場 (881) 8494
- 名画座 (231) 3211
- 雁道劇場 881 8069
- 日比野東映 (671) 0407
- 八熊文化劇場 (321) 8194
- 南映画劇場 (811) 4906
- 新郊劇場 811 2730
- 名港文化劇場 (661) 1269
- 名南劇場 (811) 6586